

インプラント治療が抱える問題点 -大学病院での症例から考える-

愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座
愛知学院大学歯学部口腔インプラント科
宮前 真

欠損補綴治療の選択肢として、デンタルインプラントの有用性が臨床的あるいは基礎的にも認知され、幅広く使用されています。

インプラント支持クラウンやボーンアンカーブリッジでの補綴治療においては、残存歯の切削がない、効率的に咬合力を分散することができる、義歯に比較すると違和感が少ないなど多くのメリットを有していることはご承知の通りだと思われます。また、インプラントオーバーデンチャーについても強固な支持・把持・維持を有することから、コンベンショナルな義歯治療に比較して、飛躍的な機能回復を期待することができます。その反面、外科的侵襲を伴い人工代用物を使用する治療法となることから、デメリットあるいはリスクについても認識し、慎重に治療することが重要となります。

医療行為である以上、安全・安心な治療を提供し、患者・術者がともに満足できる術後経過となることが理想ですが、現在、大学病院における口腔インプラント科診療部に受診される患者様の多くが、施術されたインプラント治療に対する不満をお持ちであり、いわゆる「トラブル症例」も少なくありません。また、ドクターショッピングを繰り返すことから、複数の異なるメーカーのデンタルインプラントが口腔内に存在し、その特定が容易でないことも経験します。

そこで今回は、インプラント治療の問題点を再考し、それらの症例を供覧することから、適切なインプラント治療について一緒に考えてみたいと思っています。

略歴

平成 8 年	3 月	愛知学院大学歯学部歯学科卒業
平成 8 年	4 月	愛知学院大学大学院歯学研究科入学（歯科補綴学専攻）
平成 10 年	7 月	カリフォルニア大学バークレー校にて在外研究（平成 11 年 9 月迄）
平成 12 年	3 月	愛知学院大学大学院歯学研究科修了 博士（歯学）の学位取得
平成 12 年	4 月	愛知学院大学歯学部歯科補綴学第一講座（現有床義歯学講座）非常勤助手
平成 13 年	7 月	愛知学院大学歯学部歯科補綴学第一講座助手
平成 16 年	1 月	愛知学院大学歯学部歯科補綴学第一講座講師
平成 22 年	4 月	愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座講師
平成 26 年	1 月	愛知学院大学歯学部高齢者歯科学講座准教授（現在に至る）

所属学会

日本口腔インプラント学会会員（専門医）
日本補綴歯科学会（代議員，専門医・指導医）
日本顎顔面補綴学会（代議員，認定医）
日本磁気歯科学会会員（認定医）
など